

2022年3月期 第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 建築用ガラス事業においては、前々期の2020年3月期と比較しても増収増益となっているが、これは価格上昇によるものか、数量増加によるものか？
- A: 建築ガラス事業においては特に欧州において価格が上昇しており、また同時に、販売数量や構成も改善しており、その両方が寄与した結果、営業利益率の回復につながっています。
- Q: 太陽電池パネル用ガラスの出荷実績と、今期の見通しは？
- A: 当第1四半期は、前年同期から数量は増加しています。年度を通して数量が増加するという想定通りに推移しています。
- Q: エネルギー価格が上昇しているが、ヘッジによりその影響を緩和することができるか？
- A: 直近のエネルギー価格上昇による影響については、今回修正した業績予想に織り込んでいますが、エネルギーコスト全てをヘッジしている訳ではありません。しかしながら、建築ガラス事業の欧州などでは、エネルギーコストの上昇分を製品価格に転嫁することが一定程度可能であるため、ヘッジと合わせて影響を緩和することができます。
- Q: 日本国内での建築用ガラス事業における値上げの効果について教えてほしい。
- A: 値上げの対象となるのは、10月以降の出荷分ですが、徐々に値上げが浸透することで、エネルギーコストの上昇による影響を吸収することを目指しています。
- Q: 建築用ガラス事業では南米市場も好調なようだが、アルゼンチンの新フロート窯の建設計画は変わらないとみて良いか？
- A: 旺盛な需要を背景に、既に建設工事を再開しており、今年度中の工事完了を目指しています。
- Q: 2022年3月期の下期の業績予想を据え置いた理由を教えてください。エネルギー価格の上昇や自動車用ガラス事業において部品不足等、不透明感があるものの据え置きとしたのは、それらのリスクを踏まえても利益を確保できるということか？
- A: エネルギー価格や自動車部品不足の解消時期など、業績予想に織り込みにくい不透明なリスク要因はあるものの、リバイバル計画24（RP24）に基づくコスト削減施策などの対策より利益は確保していきたいと考えています。
- Q: 今回上方修正した2022年3月期の上期業績予想から第1四半期実績を差引くと、第2四半期は第1四半期との比較で減収減益となるが、その理由を教えてください。
- A: 第1四半期実績が当初想定を上回った一方で、第2四半期は保守的に見て、ほぼ当初想定のままとしているためです。
- Q: NSGの太陽電池パネル用ガラスの最大顧客であるファーストソーラー社が、北米オハイオ州やインドでの生産能力増強計画を発表したが、NSGはどう対応するのか？窯の新設も考えているのか？
- A: 当社としては、既存のオンラインコーティング付きのフロート窯からの出荷対応や、既存フロート窯の改造、あるいは窯の新設など、取りうる選択肢はいろいろあると考えています。一方で、財務基盤の回復に向けて当面は設備投資をなるべく抑える方針である中で、最善の策を今後検討してまいります。